

関係各位

京都府病虫害防除所長  
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

◇  
発生予察注意報第 3 号

**果樹カメムシ類の予察灯への飛来が急増しています。  
今後、収穫期を迎える園では果樹カメムシ類の発生に十分注意してください。**

- |        |                               |
|--------|-------------------------------|
| 1 作物名  | 果樹全般（ナシ、ブドウ、カキ、カンキツ類など）       |
| 2 病虫害名 | 果樹カメムシ類（クサギカメムシ、チャバネアオカメムシなど） |
| 3 発生地域 | 全域                            |
| 4 発生時期 | 9月～10月                        |
| 5 発生量  | やや多い～多い                       |

6 注意報発令の根拠

- (1) 予察灯（B L 20W）におけるチャバネアオカメムシの7月第4半旬～8月第4半旬の誘殺数は、京田辺市で3頭（平成81.5頭）と平成並であるが、亀岡市では14頭（平成10.3頭）、京丹後市では132頭（平成75.2頭）と、両地点ともに平成比やや多い（表1）。
- (2) 予察灯（B L 20W）におけるクサギカメムシの7月第4半旬～8月第4半旬の誘殺数は、京田辺市で11頭（平成11.5頭）と平成比やや多く、亀岡市では30頭（平成2.0頭）、京丹後市では204頭（平成31.1頭）と、両地点ともに過去10年と比較しても最も多い（表2）。
- (3) 特に、クサギカメムシは京丹後市では7月以降平成に比べ多い誘殺を認めた。（図1～3）。
- (4) 京丹後市の晩生品種のモモ及び宮津市のワイン用ブドウ（無袋栽培）で加害が確認されている。

7 防除上の注意事項

- (1) 果樹カメムシ類は夜行性であるため、夕方の防除が有効である。
- (2) 被害は、園による差が大きく、また、園の周囲で多くなるなど多様である。園内外の成虫の発生状況等を常に観察し、飛来を認めたら防除する。特に山林等の隣接園では注意する。
- (3) 収穫期に近い品目や品種での薬剤防除に当たっては薬剤の使用時期（収穫前日数）に十分注意する（表3～6）。
- (4) 今後、収穫が進むことに伴い、カメムシ類の加害はより晩生の品目、品種に集中する恐れがあるので、これらの品目や品種では十分に注意する。
- (5) 防除薬剤を使用する際は、使用基準を厳守すること。

なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」  
[\(<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>\)](http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html) を参照のこと。

表1 予察灯(BL20W)誘殺数(チャバネアオカメムシ)

調査年	設置場所		
	京田辺市	亀岡市	京丹後市
H29 (平年比較)	3 (並)	14 (やや多い)	132 (やや多い)
平年値	81.5	10.3	75.2
H28	7	14	15
H27	2	2	31
H26	102	10	252
H25	2	1	1
H24	396	20	62
H23	1	0	1
H22	286	50	185
H21	0	0	2
H20	15	5	180
H19	1	1	5

表中の数値は7月第4半旬～8月第4半旬の合計値(頭)

表2 予察灯(BL20W)誘殺数(クサギカメムシ)

調査年	設置場所		
	京田辺市	亀岡市	京丹後市
H29 (平年比較)	11 (やや多い)	30 (多い)	204 (多い)
平年値	11.5	1.8	25.0
H28	4	7	11
H27	3	1	33
H26	10	3	85
H25	5	0	4
H24	56	3	43
H23	6	0	2
H22	10	3	57
H21	4	0	0
H20	12	1	8
H19	3	0	1

表中の数値は7月第4半旬～8月第4半旬の合計値(頭)

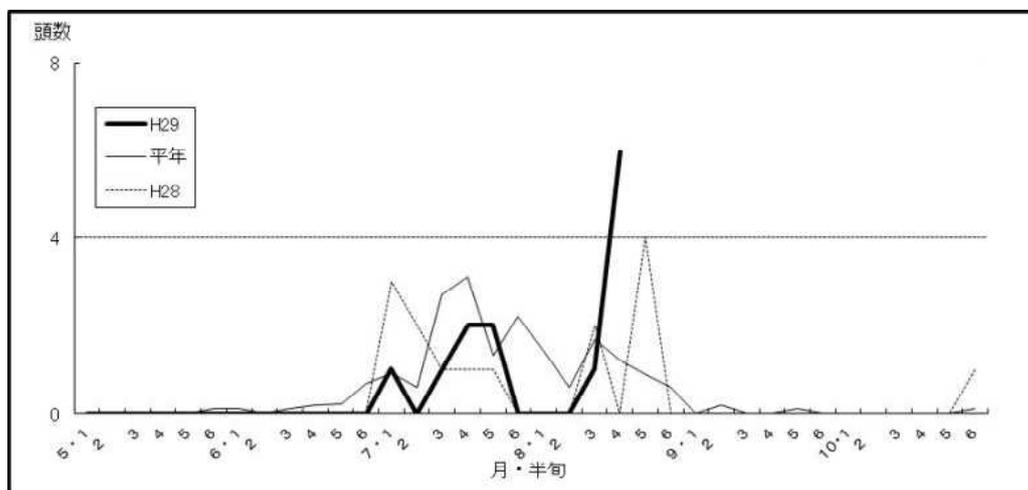


図1 クサギカメムシの予察灯(BL20W)への誘殺数推移(京田辺市)

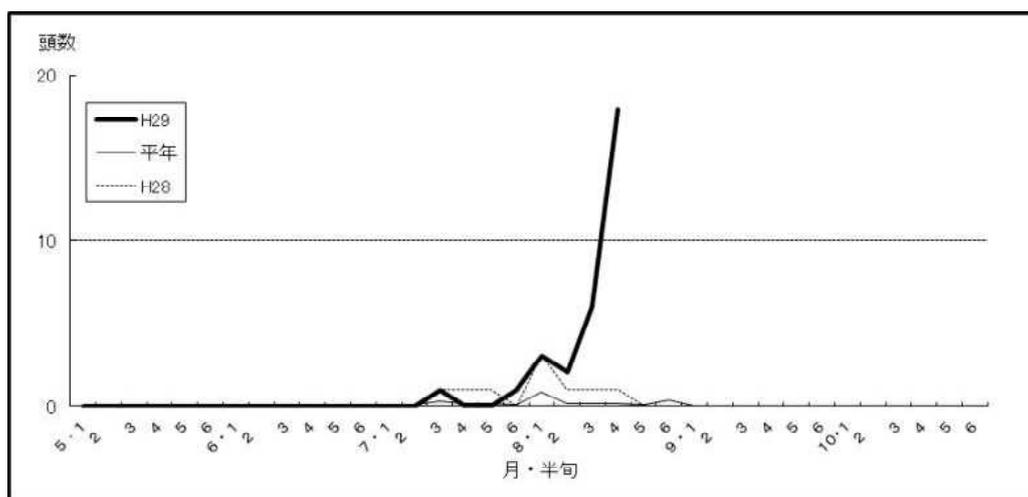


図2 クサギカメムシの予察灯(BL20W)への誘殺数推移(亀岡市)



表3 「ナシ」でカメムシ類に登録のある主な薬剤(平成29年8月30日現在の登録内容)

IRACコード(※)	農薬名	希釈倍率	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数
4A	アクトラ顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	アドマイヤー水和剤	1000倍	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内
	ダントツ水溶剤	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
3A	ロディー水和剤	1000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	4回以内(噴射は2回以内、散布は2回以内)
	テルスター水和剤	1000～2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
	テルスターフロアブル	3000～6000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
	アグロスリン水和剤	1000～2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内

表4 「ブドウ」でカメムシ類に登録のある主な薬剤(平成29年8月30日現在の登録内容)

IRACコード(※)	農薬名	希釈倍率	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数
4A	ダントツ水溶剤	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内(塗布は1回以内)

表5 「カキ」でカメムシ類に登録のある主な薬剤(平成29年8月30日現在の登録内容)

IRACコード(※)	農薬名	希釈倍率	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数
4A	アクトラ顆粒水溶剤	2000倍	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内
	アドマイヤー水和剤	1000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
	ダントツ水溶剤	2000倍～4000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
	スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内(塗布は1回以内、散布は3回以内)
3A	テルスター水和剤	1000～2000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
	テルスターフロアブル	3000～6000倍	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内
	アグロスリン水和剤	1000～2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	アーデント水和剤	1000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内

表6 「カンキツ」でカメムシ類に登録のある主な薬剤(平成29年8月30日現在の登録内容)

IRACコード(※)	農薬名	希釈倍率	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数
4A	ダントツ水溶剤	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	6回以内(樹幹散布は3回以内、散布は3回以内)
	スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	アドマイヤーフロアブル	2000～5000倍	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
3A	テルスター水和剤	1000～2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	テルスターフロアブル	3000～6000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	MR. ジョーカー水和剤	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内

※IRACコード…殺虫剤コード。殺虫剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のことで、本コードが異なる薬剤を使用することにより、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができる。